

マスターズ競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は2023年度IAAF規則、(公財)日本陸上競技連盟競技規則、WMA競技規則、(公社)日本マスターズ陸上競技連合競技規則並びに第24回長野マスターズ陸上競技茅野市大会競技注意事項により実施する。

2. 競技者の招集について

競技に出場しようとする者(以下「競技者」という)は、競技者招集所において競技役員に出場の手続きをし、点呼を受けなければならない。

- (1) 招集所は、第4コーナー外の倉庫に設ける。
- (2) 招集時刻は、競技日程に記載の時刻とする。時間厳守とし、招集時刻に遅れた者は出場できない。
- (3) アスリートビブス及びスパイクピンを提示できるよう準備の上、招集所で待機し、点呼を受けること。
- (4) 他の種目に出場している等で、点呼を受けられない特別な場合は、事前に招集所の競技役員に申し出ること。
- (5) 招集完了時刻までに所定の手続きをせず、また点呼を受けない競技者は、当該種目を棄権したものとみなして処理する。
- (6) 点呼を終了した競技者は、競技者係員の指示に従って競技開始場所に移動すること。

3. アスリートビブスについて

- (1) 競技者は、アスリートビブスをユニホームの胸と背につけ、安全ピンで四隅をとめること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背のいずれかに付けばよい。
- (2) 1500mの競技者は、腰ナンバー標識をパンツ両側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係(選手招集所)で受け取り、フィニッシュ後は返却する。ナンバー標識を受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること
- (3) アスリートビブスは、各県で割り振られた番号及び所持するアスリートビブスを使用する。

4. 練習会場の使用について

- (1) 練習は競技場内のバックストレート、トラック内芝生エリアで行うことができるが、競技運営の状況で、制限をする場合がある。事故防止には万全を期す。陸上競技場バックスタンド裏のウッドチップコースは、ランニングコースのため一般利用者に配慮し、待機場所として使用しないこと。併せて、この場所でのウォーミングアップはジョギングのみとし、動き作りやダッシュは禁止する。
- (2) 荷物等は、個人が責任をもって管理すること。

5. 競技場への入退場について

すべての競技者は招集所にて競技役員の指示により競技場へ入場する。ただしウォームアップ時の入場はこの限りではない。競技場内への指導者(コーチ・保護者)入場は、安全管理の観点から、ウォーミングアップ時に必要な場合のみに限定する。競技時のコーチングや応援はメインストレート及びバックストレート観客席からとし、競技場内ではできないこととする。

6. レーン順・試技順について

トラック競技のレーン順、オーダー及びフィールド競技の試技順は、プログラムの数字で示す。

7. 事故防止について

- (1) 本大会期間中すべての競技者は、競技役員(セーフティジャッジ及びセーフティジャッジ以外の競技役員)から「競技への出場または競技の続行が危険」と判定された場合は、その時点で競技出場及び競技続行は出来ない。
- (2) 競技者はセーフティジャッジ及び競技役員の判定に従わなければならない。
- (3) 判定に従わず競技に出場または続行した場合の記録、順位は一切認めない。

8. 競技について

- (1) 競技者の出場する競技種目の変更、追加は一切認めない。
- (2) 年齢に不正があった場合は失格となる。
- (3) 競技用具、競技用靴について。
 - ① 競技に使用する棒高跳用ポールは、選手個人が用意したものを使用すること。
 - ② フィールド競技に使用するマーカーは、走高跳、棒高跳、走幅跳の各種目とも2個まで使用できる。走高跳は助走路上に、走高跳と走幅跳は助走路の外側に置く。
 - ③ 競技場は全天候舗装である。競技用靴のスパイクは、11本以内で長さ9ミリ以下とする。ただし、走高跳は12ミリ以下とする。

- (4) 競技者は、携帯電話・スマートフォン・通信機器・CD・MD・デジタルプレイヤー・ラジオ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (5) 競技開始時刻については、競技の進行上多少の変動がありうる。
- (6) **トラック競技**
 - ① トラック競技は、すべて写真判定装置を使用する。
 - ② 同クラスが複数組の場合、すべてタイムレース決勝とする。
 - ③ 同タイムの場合の順位は、同組で着差が無い場合、または組が異なる場合は、生年月日の早いものを上位とする。
 - ④ 短距離競走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も割り当てられたレーン（曲走路）に沿って走ること。
 - ⑤ 不正スタートの時は、1回目の不正スタートで競技者は失格とする。

(8) **跳躍競技**

- ① 試技順は全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中に他の競技に出場する者は、審判主任に申し出ること。その場合、トラック競技を優先しフィールド競技については本人希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。
- ② 試技数
走幅跳の試技数は、各クラスとも4回とする。
- ③ 順位の決め方
走幅跳で同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は3番目の記録で比較し、以下同様にして決める。それでも決められない場合は、生年月日が早い者を上位とする。
- ④ 走高跳、棒高跳のバーの上げ方の基準は、グランドコンディションや参加者の状況によって、跳躍審判長の判断に委ねる。
また走高跳、棒高跳で最高位が同記録の場合ジャンプオフは実施しない。その場合の順位は生年月日で早い者を上位とする。
- ⑤ 走幅跳の踏切板の位置は、砂場から2mとする。

9. その他の注意事項

- (1) 抗議について
競技の異議申し立ては公式発表後30分以内にTICへ申し出る。異議申し立てに対する審判長の裁定に納得できず上訴する場合は、所定の用紙に必要事項を記入の上、預託金1万円を添えなければならない。なお、この預託金は抗議が受け入れられなかった場合には没収される。
- (2) 表彰について
出場者全員に記録証を授与する。記録証は選手受付の際に申込した種目数分を配布するので、記録等は自身で記入する。
- (3) 競技結果は正面入口付近の掲示版に掲示する。
- (4) 応急処置
応急処置を必要とする事故が発生した場合、直ちに医務室で処置を行うが、それ以降の責任は負わない。応急措置以降の治療費等の経費は本人負担とする。
事故に起因して継続した治療を要することとなった場合は、大会実行委員会に連絡すること。
- (5) 所持品類は各自で保管すること。万一事故があっても主催者側は、一切の責任を負わない。
- (6) 主催者側は個人情報保護に関する法令を厳守し、(公財)日本陸上競技連盟個人情報保護方針に基づき取り扱う。なお、取得した個人情報は資格審査、プリントアウト編成、記者発表会、その他競技運営に必要な連絡などに利用する。

10. 地震発生時等には主催者の指示に従い行動すること。

11. 連絡事項

- (1) 駐車場は、指定された場所（「第2駐車場」及び「第3駐車場＝未舗装地」）以外の駐車場の使用を厳禁とする。
- (2) ごみ類は、すべて各自の責任で持ち帰ること。
- (3) 待機場所については、陸上競技場メインスタンド裏の西側エリアを待機場所とする。各自テント内での衛生管理を行うこと。
- (4) 男子の更衣室は設けない。女子の更衣室はメインスタンド1階にあるので、利用希望者はTICまたは競技役員に申し出て入室すること。